



殺されるのは いやです

本所支部 山本秀雄

戦争は私たちの生命を奪い、生活を奪い、青春を奪い、平和を奪うものであります。

しかし、いままで独占資本と結びついた日本政府は、戦争入戦争へとまっしぐらにすすんでいって

それがLSTによるベトナム派遣であり、アメリカの極東政策にみられる日本の従軍行動といえます。

国内で肥え太った独占資本は国際的にも、生きのびる最後の手段として、戦争への道を邁進するので、私は、戦争阻止の闘いは、

私たちが、戦争で死ぬのもいや、合理化で殺されるのもいやです。命は私たちの抵抗で守らねばなりません。

戦場から 戦争反対を

四山支部 伊東 猛

ベトナム問題に対して「ベトナムは、ある程度反戦意識が定着している日本人に対し、一定の批判的なキャンペーンを組織しているように見えているが、これはあくまでも海の彼方の戦争への批判に限定しているに過ぎない。しかし、事実上はわれわれの日本がアメリカ帝國主義の残虐な侵略行為に巻き込ま

怒りに燃えるインドシナ

ベトナムの戦火によせる声

つづけている、その偽善的行為は憎むべきだ。この戦争は米軍の撤退が最低の条件の解決だと思

つづけている、その偽善的行為は憎むべきだ。この戦争は米軍の撤退が最低の条件の解決だと思

同調者にも
攻撃を
塩田庄兵衛(都立大教授)

毎朝、新聞をみるたびに怒りに心が燃え立ちます。ベトナムに対するアメリカの非道には爪のあかほどの弁論の余地もありません。ベトナムへの侵略の拡大は、どのもたぬおぼろ、日本の平和と民主主義の侵害のエンカレーションそのものであることを声かきりに絶叫し、侵略者とその同調者に、いっさいの攻撃を集中すべきことをほかにまたと信じます。

沖繩の祖国復帰を!

海上集會に参加して

港務支部 池田 住 雄

サンフランシスコ講和条約発効の日(四月二十八日)、本土と沖繩の海上で本土、沖繩両代表によって沖繩返還要求の海上大会が盛大に行なわれました。

私は入隊のため故郷を離れて二年、一度は故郷に帰りたいと思っている時、沖繩返還海上集會に、三池の代表として参加させて

正気になろう

宗像誠也(東大教授)

「もはや戦後ではない」戦前です。第三次大戦の戦前です。第二次大戦の戦前同様です。

たて二つの違いは、日本がこの前は狂気のナチス・ドイツと一緒だったこと、今度は狂気のアメリカと一緒にいることです。狂気と手を切り正気にならう。

偽善を憎む

東野英治郎(俳優)

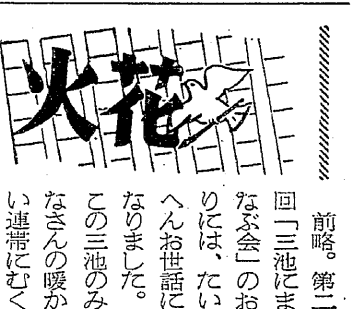
ベトナム戦争については実に苦々しく思っています。シモンンの平和解決をうながす一方では、極端に極端な攻撃を盛んに

前略。第二に「三池にまなぶ会」のおりに、たいへんお世話になりました。この三池のみなぶの暖かい連帯に、私

このトラ、となり、この職場集會に中・高年齢層も驚き「あんなに盛り上がって、若い連中がハハッとしたら、俺たちはたまらなくなって、俺たちも出てきたらいいな」と目をみはっていました。

また近いうちに友だちをつれて三池に行きたいと思つて、そのときは、どうせついでにお願ひします。

北九州市八幡区本城引地 吉成 一彦 宮浦支部・藤沢 誠



火花

八幡製鉄労組 吉成 一彦

三池爆発について夕張のガス爆発でも多くの仲間が殺され、被災の被害は続いております。なんともいえない思いが胸に、胸の中がムカムカします。それに

私たちが、春闘の中でひんぱんに職場集會を開き、その中で七日会の中央委員に、職場の不満が若い人の中から出されました。この

また一方には「反合理化斗争はもはやいかん」といって、反合理化斗争の戦略的意義をせん

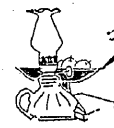
また近いうちに友だちをつれて三池に行きたいと思つて、そのときは、どうせついでにお願ひします。

労働大学大牟田分校が開校され第一期がいよいよ労働会館に於て五月二十四日から開講されます。

激しくなればなる程、私たちがこれからの職場斗争をなし、すめるための、正しい理論

哲学理論書であるが、哲学といふものを、現実の生活に密着させて明瞭に、労働者が日々経験している事実

宮浦支部 藤沢 誠



私の書棚

【第九回】 激しくなればなる程、私たちがこれからの職場斗争をなし、すめるための、正しい理論

秋沢修二著 「もの見方・考え方」

「もの見方・考え方」 宮浦 平 川 哲 哉 本書は三編から成っており、各章ごとに整理できるような問題をあげてあり、著者の親切さがうかがえる。活動家必読の書である。「もの見方・考え方」 秋沢修二著 一三〇円 労大新書



沖繩返還海上集會に参加した池田さん(右はし)